

17年度12回セミナーのメモ

題目：臨床火山防災学と市民からの環境ガバナンス

講師：中村秀規氏（富山県立大学）

日時：17年3月30日木曜、18h～20h

場所：富山県立大学環境工学棟3階

参加者：10人

中村先生は、研究と社会出の実践をセットにすべきとして、臨床防災学を研究されておられます。また臨床では市民の参画が必要としてこれを環境ガバナンスと称して研究に着手し進めているとのことでした。

以下に、講演の内容を箇条書きにして掲載します。ただし、あくまでもメモということをお断りしておきます。

<1> 臨床火山防災学プロジェクト

(1)概要

- ・治療目的：地域が主体で火災防災を派店させる場作り
- ・組織：名古屋大中心で金沢大、京都大など
- ・実施内容：火山防災協議会支援の学習会やWSの実施

(2)火山防災協議会の企画力向上を目指す。

対象項目は；

避難方策、火山防災情報伝達、火山監視観測、
研究体制、防災教育、インフラ整備

(3)理念

臨床火山防災、実践
診断 → → 処方と治療
基礎火山防災、研究

(4)専門家と実践者のネットワーク

対象：岐阜地域

大学：名古屋、岐阜、京都など

(5)ステークホルダーが意見交換

行政担当者学集会とWSの実施

h28年度では焼岳、白山、御嶽山を対象。

(6)企画力向上

a.構想、実現

一般の場合：組織を背負った議論、組織と組織の協議。

本研究：組織を超えて以下の方法で論議

意思決定の場必要だが、

組織代表でない少人数での意見交換。

結論もとめず。

ただし今回、民間は入らず、

民間は観光や住民、山小屋、ジエパーク、等

(7)WSと講演会

講演：福島大輔氏（櫻島ミュージアム）を講師に。

WS：

(8)企画の実施

焼岳、御岳、白山

防災教育、避難、暮らし、等

平常時、応急対策時、復旧復興も。

(9)意見交換内容

- ・避難計画、情報発信、噴火後の観光、住民意識づけ等
- ・平時では、避難計画、コミュケ、など
- ・応急対策時では、風評被害など
 避難 情報伝達、リーダシップ など
- ・噴火後の観光や登山、暮らし

(10)防災教育

地元小学校で、白山手取り川ジオパークを題材に。

ジオパークとは地形や文化を対象

(11)横展開

- ・動きやすい組織
- ・ｽｲｯﾁﾙﾀﾞの巻き込み
- ・防災力向上のための道具整備
 教材とそれによる授業やジオパーク活用

< 2 > 市民からの環境ガバナンス

(1)東日本大震災

エネルギー環境政策に関する市民対話を考案・実施

内容；討論型世論調査、対話型対話型世論調査

市民の中の議論、対話の場

多様な立場での話し合いの場話の場、

(2)私が主権者として

立法過程への関与、行政過程への関与

(3)くらし、なりわい、つとめ(自分を取巻く環境)

くらしのなかにつとめあり

つとめは社会とのつながり

なりわいのなかにつとめあり

(4)合意の調達と合意形成

行政と専門家による市民との合意の調達

市民どうしによる合意形成

分かると納得への働きかけ

勇気と覚悟の決定

(5)コミュニケーションの場

主権者同士の場。主権者と専門家・行政との場

(6)市民コミュニケーションの基本的ルール

対立なし。否定しない。結論出さない。

自由テーマ

(7)市民同士の対話

ルール設定：ブレストと同じこと。項目(6)

テーマは市民が決める。

立場型プレゼン

市民同士の対話における専門家の設置

(8)専門家設置

専門家：異なる立場の専門家の存在が重要。

参加者：テーマに興味。市民との対話、他の人の意見聞ける例：市民対話「高レベル放射性物質と私たち」

(9)ファシリテーターの役割

自分意見をださず、最小限介入

ルールの遵守：結論出さず、仕切らない、否定しない。

(10)効果

対話で知識変化（増す）

意見が変化したかどうか 確信を持った

第三者機関設定し各段階で議論すべき

対話に関する態度変化

他の意見を受け入れることが少し増えた。

感情的にならなかったから。

知識の大小が対話全体にすこし影響

自分と専門家との話し合い

少数派となったとき

特定意見を尊重

参加者全員が良かったと評価。

専門家の話聞けた。対立専門の話も。

市民のほかの声も。

政府主催

市民の声を聞ける

より政策に反映

(11)>特徴

a. 専門家を配置したこと。

市民は何もしらない

→専門家の情報は市民対話に際して役立つ

→教育の問題はいつも指摘あり。

市民討論に先立ち対立専門家の話を聞くことが多い

専門家配置しても市民対話時間減少すること無し

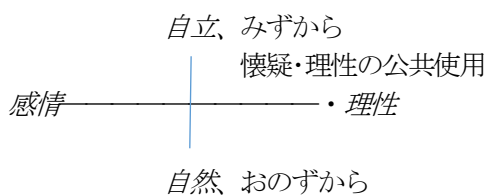
b. 市民は情報収集して立場を決めている。

(12)結論

- ・対話ルールのある対話がよい形態。
- ・市民からテーマ設定は可能
- ・立場明示型伝達の専門家の設置は重要
- ・極端意見が結構取とおる。集団極化
- ・専門家配置 情報提供が必要。

(13)結論 2

- ・めざすは、集成的意思決定とやわらかな制御
- ・理念イメージ



< 3 > 質疑応答

講師の熱弁で場が盛り上がったとこで、皆さんとの話し合いがありました。編者の記憶している項目のみ記します。

c. 本来は社会の場でこうしたことがあるべき。

これがないというのは偏向的な伝達あり。

c. ものわかりを良くするための市民同士対話か

c. 諮問型署名で原発再稼働反対を唱え手いるかたがたもいる

c. 自分自身でも対話していないことが多い

c. キリスト教も仏教も同じ人間性を捉えている。

c. 地球温暖化はやりやすいテーマだ。そこから発展。